



Dignity 2.0

International Conference

2021

目次

01	目次
02	Dignity2.0 国際カンファレンス 設立趣旨
04	代表挨拶
06	発起人挨拶
	-Dignity2.0 国際カンファレンス開催に寄せて-
08	2021 年度 開催概要
18	Dignity 2.0 - 自然・人類尊栄の基準点 -
19	世界基軸教育とは
	- 新発見と新発明がリードする日本初の希望のメッセージ
36	関連書籍紹介
38	Dignity2.0 国際カンファレンス 賛同者一覧
40	わたしたちについて

設立趣旨

人工知能（Artificial Intelligence：AI）は第3世代AIの中心である深層学習（Deep Learning）を超え、第4世代へ向かっています。この驚異的な進化は多くの利便性をもたらすと同時に、人間の肉体労働や知的労働を代替し始め、近い将来、大半の人間が無用者になると揶揄されるほど危機的な状況に追い込んでいます。そんな中での新型コロナウイルスの出現は、小さなウイルス1つさえも制圧できないという現代科学の限界を露呈し、世界共通の脅威となりました。健康被害のみならず、経済も瀕死状態に追い込み、心の健康も潰され、鬱や自殺、憤怒による暴力が蔓延するなど歯止めが効かない状態です。

これらの出現が、私たち人類に突き付けている究極の問い、それは『人間の尊厳とはなにか』ではないでしょうか。2045年には科学技術の終焉を迎えると言われ、これまでの時代が幕を閉じようとする中、本格的に心時代の扉を開けて次なるステージに上がるためには、この問いへの答えは避けて通れません。

これまでの尊厳の概念、Dignity1.0は、「部分的な存在の尊厳」に留まり、その存在間の尊厳関係を追求しました。ですが人類最大の転換期を迎えた今、尊厳の概念も進化すべきだと考えます。わたしたちが提唱するDignity2.0は、部分的な存在を許さない「1つだけがある世界（Non-duality）」をディファイン（規定）し、「尊厳でないものはひとつもない」ことを共通土台として出発します。そして、データや情報、知識などすべてが尊厳であり、その尊厳を土台に意味や価値を生み出し、未来を描きます。

このDignity2.0を元にした新教育、国家を超えて共有できる「世界基軸教育」は時代の要請です。そして、ともに未来社会や人間のこれからの在り方を探求し、本当の心と尊厳を伝える知恵を共有、融合する場を希求しています。これまでのように国家間やイデオロギーで争うのではなく、ともに新たな未来を創造するためのビジョン同盟を組めるようにすることが真の教育の役割であり、それを担う場が必要なのです。

この教育を全世界に提唱し、普及するムーブメントとして、「Dignity2.0 国際カンファレンス」を実施します。これは、時代を牽引するリーダーの受け皿であり、哲学、スピリチュアル、物理学、数学、科学など、すべての学問を融合し、知を大統合する教育、技術を世界に普及するムーブメントであり、今までと次元が異なる新しい知識生産方式を共有するメタプラットフォームです。

この場では、多種多様な最先端分野で活躍する人が一堂に会し、各々の探求を共有し、心時代に必要な教育とは何かを考えます。また新たな教育を生み出し、心時代の職業、技術、商品、産業を創出します。

さらに、自由民主主義と共産主義のイデオロギー対決を尊厳民主主義で融合し、ポストコロナ時代の世界基軸教育による共同体の共生共栄の道を共有し、拡散することを目的とし、この趣旨の賛同者有志が運営する組織会議としても機能します。

2021年10月、大阪での開催を皮切りに、世界の主要都市に「Dignity2.0 国際カンファレンス 運営組織」を設置し、世界的な組織として活動の場を広げる予定です。運営は、大陸ごとにカンファレンスの進行グループを設けてシステムで分化し、「Dignity2.0 国際カンファレンス」を経営する準備委員会は、時代を代表する組織として創設します。また、各国のニーズに合わせた人・ジャンル・方法を選択して開催する予定です。

人類未経験の危機的な時代に、世界基軸教育で危機を希望に大反転させ、尊厳を土台にした持続的な進化・発展を可能にする世界の実現のために、「Dignity2.0 国際カンファレンス」をここに設立します。



代表あいさつ



人工知能(AI)の時代、2045年には人間の脳とAIの能力が逆転するシンギュラリティに到達すると言われています。

2050年問題と表されるように、オーストラリアのシンクタンクは、今後30年の気候変動にまつわるリスクを分析し、最悪の場合、2050年には人類文明が終焉に向かうかもしれないというシナリオを分析した文書を発表しています。

そして、新型コロナウイルスパンデミックは私達人類に何を問いかけているのでしょうか。その根本解決は可能でしょうか。

科学技術の目覚ましい発展により人類は大きな恩恵を受けたと同時に、上記のような人類の危機があります。この現在地を正確に診断し、あるべき未来に向かうための羅針盤がDignity2.0国際カンファレンスです。AI時代に到達した今、「人間とは何か」「人間の尊厳とは何か」、その答えを私たちが明確に持ちながら未来を描かない限り、地球上の人類存続は困難であると言わざるを得ません。

2020年11月に東京での第1回Dignity2.0国際カンファレンスを予定しておりましたが、コロナパンデミックにより延期せざるを得ない状況がありました。

2021年10月、約1年遅れにはなりましたが2050年の地球の存亡が危ぶまれているこのタイミングで、本来持つべき人間の尊厳を土台に明確に未来の方向性を指し示す「Dignity2.0国際カンファレンス」を、2025年大阪・関西万博を目前にした大阪の地で開催できますことを嬉しく思います。

n Clinic 院長 内科医師
Dignity 2.0国際カンファレンス代表
令和教育財団 理事長

岩田 千佳



発起人あいさつ

Dignity2.0 国際カンファレンス開催に寄せて

この度は、Dignity2.0国際カンファレンスを開催できますことを心から感謝致します。

2019年天が開き、2020年地が開き、そして人が開くこの2021年の節目に、日本から世界へと向けた希望のメッセージ、明確なビジョン、美しい約束が発せられること、心より喜びを感じております。

兼ねてより日本が世界人類に果たす使命、ミッション、役割はとてつもなく大きなものだと感じておりました。世界の中でも異質な文化を持ち、その文化文明の美しさに感銘を受けておりましたが、実際に日本に来て、日本の絶望の涙に触れた時に、激しく慟哭したことを今でも覚えています。大和魂の目覚め、人類の目覚めのために呼吸すると決めたあの頃から今を思うと、とても感慨深いものがあります。

この日本の地で私が出会うことができた宇宙の根源とつながったDignity2.0。それはまさしく、全ての人類が懇切に願った理想であり、全ての人が享受し、全ての人とともに歩む人類の本流となるべき道筋です。この日本が、絶望の底から立ち上がり、全世界へと恒久的な平和である令和の福音を奏でる2021年10月9日、10日、11日は正しく文明が後天開闢する歴史的現場です。

科学の進化に強く依存した現代の発展で、人間の心が取り残され、尊厳不在の教育、尊厳不在の経済、尊厳不在の政治、尊厳不在の文化芸術に終止符を打つ偉大な瞬間。脳を土台にした決して辿り着くことのできない高さの成功を追い求めるDignity1.0の文化文明を脱却し、出発もプロセスもゴールも尊厳である深さの成功を得たDignity2.0の文化文明が始まる。これほど嬉しいことはありません。

世界的にも日本が受けた戦争の涙、バブル経済の涙、大地震の涙、そして、世界的混乱の最中のオリンピックと、たくさんの艱難辛苦を超えて、真の女性性・尊厳に目覚めたこの日本から始まる勝負が、世界人類に与える希望のインパクトは計り知れません。

今回の初のDignity2.0国際カンファレンスの開催が、歴史的な1ページを飾ることを確信しています。宇宙自然、人類歴史の大いなる応援とともにこの場に希望と歓喜が溢れること、心から感謝申し上げます。

令和哲学者
Dignity2.0国際カンファレンス発起人

Noh Jesu



Dignity2.0は、部分的な存在を許さない「1つだけがある世界 (Non-duality)」を規定し、「尊厳でないものはひとつもない」ことを共通土台として出発します。

2021
Osaka

2021開催概要

2021年度のメインテーマを「シン(心)時代への挑戦/THE BIG SHiFT」としてこれまでの時代とこれから時代を議論し6つのシン(心、新)ジャンルの提案を行っていきます。



日程

2021年10月9日(土)～11日(月)

1日目:10:00～21:00

2日目:9:30～21:00

3日目:9:30～20:00

オフライン、オンライン同時開催

会場

グランフロント大阪北館タワーC 8階

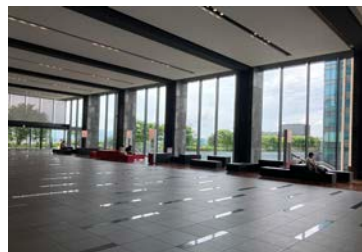
ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC

〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号

HP

2021年度HPでは、出演者情報&イベント詳細をご案内中

<https://www.dignity2.org/2021/>



”

物質文明、脳の時代(男性性時代)から尊厳文明、心の時代(女性性時代)に移動させる多様なジャンルの核心的挑戦と新しいジャンルの胎動を地球市民に報告する文明大転換の歴史の舞台を提供するのが「Dignity2.0国際カンファレンス」です。

プログラム

6つのチャレンジテーマ:教育・経済・政治・文化芸術・健康・ライフスタイルを通して、個人・団体・企業が"これまで"と"これから"を議論する場を提供していきます。

CHALLENGE THEME

教育 -EDUCATION-

これまでのように国家間やイデオロギーで争うのではなく、ともに新たな未来を創造するためのビジョン同盟を組めるようにすることが真の教育の役割であり、それを担う場が必要なのです。ここでは、「教育のBIG SHIFT」を追求していく。

経済 -ECONOMY-

Made In Japan で世界トップになる勢いだった日本経済も、モノづくりの次を生み出せず今は末期状態だ。今こそすべてをゼロ化した白紙の状態から無限のアイデア・クリエイティブを爆発させるシン(心)インフラづくりがスタンダードになる。

政治 -POLITICS-

人が結集するだけでは社会構造改革は無しない。生産性をあげるには革新的なアイデアが必要だが、ばらばらな観点の問題はアイデアやクリエイティブも枯渇させてしまう。認識構造の問題が基軸教育により解決すれば社会構造の問題解決が待っている。

文化芸術 -CULTURE & ART-

Dignity2.0の提案は部分的な存在を許さない「1つだけがある世界」を共通土台にしている。自分と無関係かつ無関心な世界もすべてが美しくみられるのがDignity2.0の状態だと規定する。その感性がもたらす地球市民の興す文化・芸術、さらに究極の平和・愛・尊厳・幸せ・勝利を追求していく。

健康 -HEALTH-

地球が自転・公転しなければ生命活動がとまってしまうように、独立した身体は存在しない。存在や身体という「結果」を「原因」にして生きれば、真の原因も過程も分からず、状況統制が不可能である。自分の体の健康にとどまらず、時間空間存在エネルギーが美しいハーモニーとなることを追求する。

ライフスタイル -LIFESTYLE-

人間の考え感情もAIが模倣するようになり、その進化は人間の予測すらできない領域に突入するだろう。多様性・多元性にあふれた複雑な観点が飛び交い情報過多で整理ができず基準点や方向性を喪失し問題が山積みになる。Dignity2.0によるこれからのライフスタイルを追求する。

EVENT STYLE

世界8カ国からのグローバルリーダー集結



40枠のセッション・イベントを楽しもう!



100名以上の個性的な出演者・登壇者に注目



対話型のオリジナリティ溢れるセッション・イベントが多数開催され、新しいコミュニティに出会うことができます。コロナ禍でも発展し続けるオンラインでの触れ合いをお楽しみください。

- [発表型] 表彰・カンファレンス・スピーチ・プレゼンテーション・上映
- [体験型] ワークショップ・体験学習・理論実践・セミナー
- [参加型] ディスカッション・トークセッション・討論・議論・メタバース

2021年10月、大阪での開催を皮切りに、世界の主要都市に「Dignity2.0国際カンファレンス運営組織」を設置し、世界的な組織として活動の場を広げる予定です。運営は、大陸ごとにカンファレンスの進行グループを設けてシステムで分化し、「Dignity2.0国際カンファレンス」を運営する準備委員会は、時代を代表する組織として創設します。また、各国のニーズに合わせた人・ジャンル・方法を選択して開催する予定です。

2021 OSAKA, JAPAN

2022年に札幌開催、
2023年はソウル開催を目指しています



SPEAKERS

100名以上の出演者、スピーカー・ファシリテーターが登場
グローバルに活動されるリーダーや、世界8か国からのゲストに触れ合えるカンファレンスにご期待ください。



合田 ジョージ
MBA/理工学修士/東芝・村田製作所・Motorola・Nobot・KDDIにて研究・設計から技術営業・商品企画・マーケティング、海外展開等、全社戦略まで広く携わる。現在は01Boosterにて活躍。



池川 明
1989年横浜市に産婦人科の池川クリニックを開設。28年間で約2700件の出産を扱い現在に至る。2001年9月保団連医療研究集会で『胎内記憶』について発表。現在、胎内記憶を世界に広める活動をしている。



井上 篤
SDGsの達成、「誰も取り残さない社会」に向けてオンラインコミュニティ設立の媒介となるコミュニティクリエイター/nTechを活用した事業化支援、育成に奔走中。



石田 和靖
【越境 3.0】YouTuber/リアルな体験を元に情報発信するチャンネル登録者数5万人以上。新興国経済に関心を持ち、海外政府と繋がり世界の課題解決を進める日本初のC to Gのオンラインサロンを主宰、運営。



今井 カツノリ
大阪泉大津市で、建築設計事務所運営。まちづくり活動、コミュニティスクールでキャリア学習授業、公園づくり活動、地域政治団体活動など地域活動実施。統合医療事業として健康基地運営、未病対策活動を実施。



植松 努
株式会社植松電機代表取締役/全国各地での講演やモデルロケット教室を通じて、人の可能性を奪う言葉である「どうぞ無理」を無くし、夢を諦めない事の大切さを伝える活動をしている。



沖田 一希
予備校講師/歯科医師/受験参考書、歯科国試解説集、一般書など執筆多数/予備校講師業・歯科医業の傍ら『健康で美しく、経済的に豊かに生きる』、『真日本史〜日本人の根っこ』をテーマに全国を講演する毎日を送る。



KAKA (坂本 克之)
5歳からアフリカが好きな自称「国産アフリカ人」自身がうつ病になった後アフリカの心の豊かさに助けられた経験から、アフリカならではの幸福感を日本に伝え、自分らしさを追求する「アフリカワークショップ」を開催中。



ガイセン・クルミ
エチオピア産の本革バック専門店 ABKA JAPAN 代表/世界中の人々が貧困地域の問題を身近に思ってもらえるように現在は「エチオピアと日本を繋ぐ架け橋」として起業し活動中。



木村 泰子
みんなでつくる大阪市立大空小学校の初代校長を9年間務め、ドキュメンタリー映画『みんなの学校』が公開。日本各地で上映され、大きな反響を呼んだ。現在は講演、教職員研修、執筆を行う。



黒川 洋司
株式会社良心塾塾長/再起を目指す服役経験者に『住居』『就労』『教育』支援をする良心塾を運営。また、家庭崩壊と虐待が子供たちの自立を妨げることに気づき、『農業』『飲食』のソーシャルビジネスを展開中。



黒田 麻衣子
Next Renaissance 地球市民会議 共同代表/海外でのビジネス経験を通し、弱肉強食の資本主義経済に憤りを感じていたが、令和哲学に出会い、個人、企業、国家も平等な関係性を築き、Win-win All winの道が開けると確信。その実現に向け活動中。



クリストフ・ポンタル
南仏生まれ。武道に限らず、道術、古神道、仏教、気功、ヨガなど多方面から本質の追求を重ねる。現在、総合武術の本質を体現し、口伝する活動に励む。



小松 航大
1998年香川県生まれ。慶應義塾大学SFCアフリカ研究会所属。YASUKE HOUSE代表。高校生で東南アジア、インドを周遊。20歳でアフリカ他26ヶ国で日本語教師を経験。アフリカでの社会起業準備中。



佐々木 浩一
「RCFメソッド®」「黄金習慣メソッド®」創始者。NPO法人「共育の杜」発起人、理事。独自の理論体系を構築し、集団力学を活用し常識を逸した結果を短期間で生み出すコミュニティを多数運営。



品川 みっしる
アメリカ在住30年・大阪出身ニュー Yorker/こんまりメソッドビジネスコーチ/片づけコンサル/レイキマスター講師/人生を楽しく鮮やかに、世界を広げながら成長をしていきたい日本人を世界に増やそうと活動中。



矢宜 榎 / 松室 佳恵 (Sherry)
地球市民会議 中国代表/中国吉林省生まれ・12歳で日本へ移住。5人で1つの精神体をベースとする新グローバルリーダーシップの実践に取り組む。



城 雄二
理学博士(物理化学)/たんじゅん農法全国ネット世話人/広島大学助教授退任後は「自然の法則に沿った、人が自然と調和する社会」を思い描いて「完全理学」を実施中。



姉咲 たくみ
新潟県出身。長岡造形大学大学院造形研究科修士課程建築学領域修了。200年後、300年後のテクノロジー科学を想定し超未来建築を考える。SF建築作家として活動中。



住田 昌治
横浜市立日枝小学校校長/2015年度ESD大賞小学校賞受賞/子どもや教師が対話的・能動的に学習参加し、深い学びにいたるためのツール開発と商品化、また記事執筆等、精力的に活動中。

SPEAKERS

紹介しきれないゲストスピーカーは公式サイト上でもご確認ください！
詳しいゲストプロフィールも掲載中です。



中野 直美

「一人ひとりがいきいき輝くために」という理念で30年前から講師活動、現在、経営者・後継者向け軸・理念・ビジョンコーチ、一人ひとりがいきいき自己を発揮できる組織づくりコンサルタント、幹部の人間力研修講師。



堤久美子

1989年から哲学をベースとした教育をスタート。2015年一般社団法人アイアイ・アソシエイツを設立し、『120万人「個の発展」をビジョンに掲げ活動中。会員は4,000名を超える。「哲学塾」が人気。



寺尾 仁志

700名のシンガーグループ human note リーダー。ケニア、ハイチ、ネパールなど世界中様々な環境の方々と共に歌い繋がりを深め続けている。2012年ニューヨークアポロシアターで単独公演を成功させる。



長野 広樹

JeiGrid(株) 代表取締役 / 大学時代IT研究で人間の存在意義の危機を感じ独立するも資本主義に絶望しnTechに出会う。現在、世界初のデジタル哲学教育による持続的な人類の進化・優しい地球創りに邁進中。



中村 ゆり

2018年インドへ移住。日本の人材業界での経験を生かし、インド特化の人材エージェントのマネージャーとして従事。週末を中心に「インドの今」を届けるインドOL系 youtuber や現地レポーターとして活動。



ナビ・ヤクブ

1958年バングラデシュ生まれ。日本に長く住んでいる外国人の立場から講演活動も行い、M.H.D主催の「男塾・女塾」、東京倫理法人会などの講師を務める。



ノ・ジュス

宇宙一美しい奇跡の数式 $(0=\infty=1)$ で「間」の数式化に成功 21世紀の悟り人 / 令和哲学者 / 数学・物理学・哲学など様々な学問の大統合を可能にする nTech 創始者。



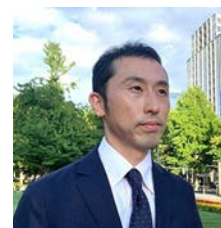
羽谷 朋晃

大学卒業後「J&J」に入社。ビジネスモデル・戦略・モチベーションと利益目標達成の関係性に気づく。独立後、中小企業で実績が出るビジネスモデル構築法を考案。1500人以上の経営者・幹部と企業の成長を支える。



花輪 稚佳子

JeiGrid 株式会社 副社長 ジーニマミスト代表モデル 世界で唯一『心』と繋がる デジタル哲学、女性性哲学で新しい生き方、ライフスタイルを提案。障害児を育てながら真のバリアフリー社会を目指す 4 児母。



原田 卓

北海道 2.0 構想発起人代表 / 心理学を学び環境問題に取り組み、15年間 nTech の開発や NR グループ関連事業に関わる nTech 講師。2016 年から活動拠点を北海道に移す。



平山 秀善

ノーネス株式会社 代表取締役兼 CEO / バクロス TV キャスター & プロデューサー / マエンジェルス チェアマン / 独自の価値観を打ち出した講演活動を続けている。



福田 純子

(株) one スマイル代表取締役 / エッセイスト / 新易学 / 運命好転学創始者 / 笑顔共和国大統領 / オリジナルメソッド新易学「運命好転学」を確立 弥勒意識覚醒講座。を全国展開。福田純子のうっかり幸せチャンネルが人気。



福田 美智江

MCA 達成 & 成功コーチング代表 / 「心の平和」をキーワードに『自分を知り、自分に自信を持ちながら、周囲の人とうまくコミュニケーションし、自分の才能を開花してイキイキと生きる人を増やす』を使命として活動中。



フマコン・A・ムガール

ジャーナリスト・評論家 / パキスタン・イスラム共和国 ラールビンディー出身 / ムガール帝国の 18 代目末裔。国際会議や法廷通訳を行い、またアジア評論家としても幅広く活躍中。



牧野 祐子

HARMONIA 代表 / nTech(認識技術) 講師 / ジーニマミストモデル / Singer / 今までの経験をもとに、『歌×真教育』で人間の創造性と歌の可能性を開花させる新スタイルの合唱プロジェクトを推進中。



南出 賢一

平成 19 年 泉大津市議会議員にトップで初当選 / 平成 29 年 1 月 泉大津市長就任。泉大津市から日本、世界の共通課題の解決モデル事業を官民連携市民共創にゼロから一をつくるために奔走中。



森 貴司

JeiGrid 株式会社 経営本部長 / NPO 法人 PBLs 共同代表理事。モノづくりからヒトづくりを掲げ、認識・組織・意識を啓蒙し、個人が潰れず持続的に進化成長可能なリゾーム組織を研究開発している。



Morphie (風見 雅子)

地球市民会議員発足準備委員会共同代表 / NPO 法人 PBLs 理事 / アイデンティティの変化を導く深さの成功と出会い nTech 研究開発の道へ Dignity2.0 を使命とシグロバルに活動。



リヒター 恵子

10 カ国駐在後ドイツ在住。クローバー Life アートオンラインスクール代表、子供を守る電磁波対策・多文化で育った子供 (TCK) の親のコミュニティ主宰。生きる力と子どもたちをテーマに活動中。



レイノルズ・容子

子供たちがグローバルな思考を持って活躍することを願い、日本在住の外国人と日本人のファミリーのコミュニティ『Global MOM to MOM』を設立。2 年目で 27 カ国籍のファミリー約 700 名が参加。



Dignity 2.0 -自然・人類尊栄の基準点-

人類のこれまでの歩みは、尊厳溢れる文化の胎動を希求する痛みを伴い続けた歴史である。宇宙自然と人類の対峙の中で生み出した沢山の知恵と叡智、そして、いつしか人類は人類同士で摩擦衝突を繰り返し、歴史の中心編者による文明の小説、虚構の中を生きてきた。誰一人同じ世界・同じ宇宙を共有できないという人間機能の限界を明確に超える術を持たずに歩んできたこれまでの人類の道のりを経てなお、未だに戦争の歴史の輪から解放され得ないでいる。

人類歴史の中で、移動手段、通信手段、接続手段と凄まじいほどの科学的知識・技術の進化発展とは裏腹に、強烈な人類尊厳の危機を生み出している。情報社会による情報の大洪水により、人間の五感覚脳の機能に裏打ちされたこの身体が自分という人間観、そして、この目に映る世界が一つの物理的宇宙空間であるという宇宙観の固定に、いよいよ臨界点を迎え、コロナによるパンデミックによって誘発された、現代人、現代社会、地球文明の叫びは、新たな自然・人類尊栄の基準点の明示を何よりも懇切に訴えている。

この強烈な危機の歴史的転換点を前に、我々は人類の認識機能のアップグレードによる尊厳文明の胎動を約束する。人権を叫び開闢したこの産業社会、資本主義社会の希望と限界の涙を受け継ぎ、明明白白な尊厳溢れる人間、尊厳溢れる関係、尊厳溢れる社会、尊厳溢れる時代、尊厳溢れる未来を創出する。二度と傷つけ合うことのない、優しさが満ち溢れる人類文化文明の形成の起点となる絶対尊厳・Dignity2.0。いかなる叡智を持ってしても人類が規定することができなかった出発点自体が尊厳であるDignity2.0の規定の歴史的成功による歓喜、感動を享受したい。

人種、国家、宗教、性別と、あらゆる脳が現出させる境界線を超えて、今この現代に共にある人類としての使命と誉れと責任とプライドを分かち合い、共に尊栄の基準点を具現化する地球市民であることを確認し、希望の未来を確かなものとするために、ここに日本より生まれた世界基軸教育について記す。

世界基軸教育とは

新発見と新発明がリードする日本発の希望のメッセージ

～日本発「世界基軸教育」による心の時代、愛のゲーム、尊厳文明の誕生～

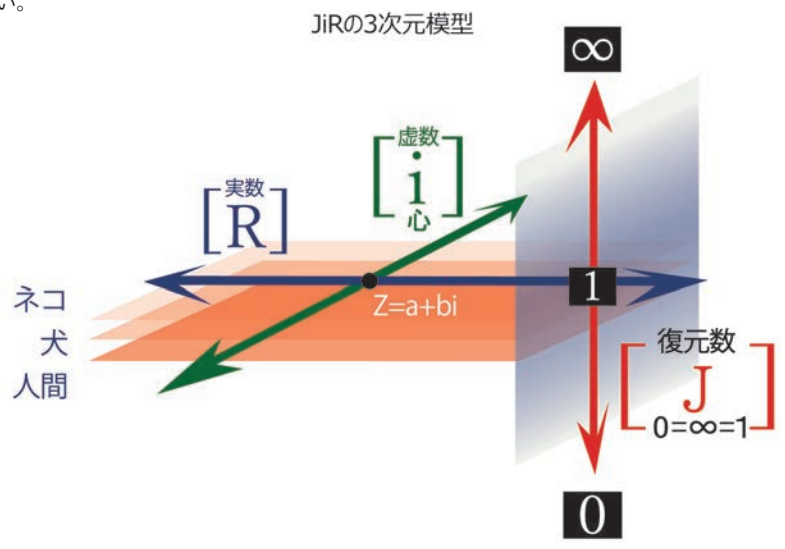
全世界で2000万部超のベストセラーとなったユヴァル・ノア・ハラリ氏著書『サピエンス全史』と『ホモデウス』。彼はこれらの中で、これまでの3大課題である「飢饉、疾病、戦争」は今や対処可能となり、21世紀は「不死、至福、神性」の3大課題へのチャレンジが必要だと語っている。世界基軸教育が始まると断言する根拠には、史上最高の偉大な新発見がある。その「新発見」とは何か。

新発見「 $0=\infty=1$ 」とは何か？

人間が最も出会いを願う相手は誰だろうか。それは、誰もがタブー視し、その出会いを諦めている「神」ではないだろうか。神との出会いが日常になるなど考えたことがないかもしれない。だが、ユヴァル・ノア・ハラリ氏が語る「神性」にチャレンジする時代はすでに始まっている。絶対世界と相対世界の関係を明白にする21世紀・心の時代は到来しているのだ。

神とは何か。この問いをいかに追求を重ねても、明確な答えに至るとは誰も夢にも思わないのではないだろうか。しかし、Noh Jesu (ノ・ジェス) は、「神」つまり「世界の根源」を史上初めて発見し、「 $0=\infty=1$ 」として数式化した。Noh Jesu が示した神は、宗教的な「非人格的な神」とは全く異なるものである。

この発見は単なる抽象概念にとどまらず、数学、物理学、哲学などあらゆる知を完成に導き、さらに知の大統合を可能にする技術 (nTech) として教育体系化に成功した。そのいくつかをここでご紹介したい。



① 数学的アプローチ

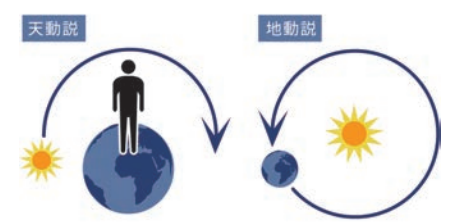
すべての差 (違い) を取りイコール (=) で結ぶ数学は、悟りに向かう学問だといえる。「 $0=\infty=1$ 」の発見は数学を完成させ、究極の悟りへと昇華させた。つまり数学に「心」、「神」を入れることで完璧な学問として完成させたのだ。

自然現象、社会現象などの物理現象におけるすべての存在は「大きさ」を持つ。これらは実数 (Real number, 以下 R) であり、一直線上に表せる。プラス (積分) 側はどんどん大きくなる物質を表し、マイナス (微分) 側はどんどん小さくなるエネルギーを表すが、いずれにしても直線上の1つのポジションに表せるのは1つに限られ、1:1の対応で表せる。これを「実数の完全性」という。

では実数 (R) で表せない「大きさがない世界」、例えば自由や愛、尊厳など、具体的な大きさを持たない抽象的な世界はどのように表せばよいだろうか。nTechでは虚数 (Imaginary number, 以下 i) で表現できると整理し、さらに「心の世界」と規定している。実数 (R) は2乗すると必ずプラス (物質) になるが、虚数 (i) は2乗してもマイナス (エネルギー) になり、4乗するとプラス (物質) になる。このように全ての物理現象は、実数 (R) と虚数 (i) という2次元の複素平面 (ガウス平面) で表せる。

新発見「 $0=\infty=1$ 」は、この2次元の複素平面に3次元軸をプラスして「観点」を取り入れた。今までの人間は、1枚の面 (観点) だけがすべてだと思い込み、2次元の複素平面に固定されていた。それは、その昔「地球は動かず、地球以外の天体が動いている」と微塵も疑わなかった天動説のようなものだ。この1枚の複素平面に固定され、人間の5感の目を見た世界を絶対視していることを「観点の天動説」と呼ぶ。

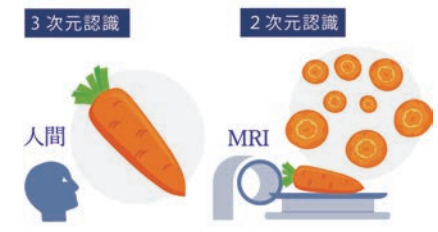
天動説と地動説



しかし実は観点は1つではなかった。観点は、人間の脳の観点、犬の観点、ネコの観点...と多種多様で無限に存在する。人間だけでもAさんの観点、Bさんの観点...と世界77億人分の観点があり、人が生まれるたびに増え続ける。そこに各個人の判断基準まで加えたならば、さらに無限になる。

観点が無限に存在するだけでなく、観点が0の状態もある。観点や大きさ、エネルギーが生まれる前段階の無制約状態がそれである。観点0の状態から1次元、2次元、3次元...と制約された無限の観点が生まれる。例えば人間の脳の観点 (3次元認識) では「ニンジン」は1本だと捉えるが、MRIのような断面図 (2次元認識) では無限の面の存在として認識するように、次元を移動すれば全く違う世界が表される。人間は、無数にある観点 (次元) の中のたった1つの次元 (人間の脳の観点) だけに固定するのだ

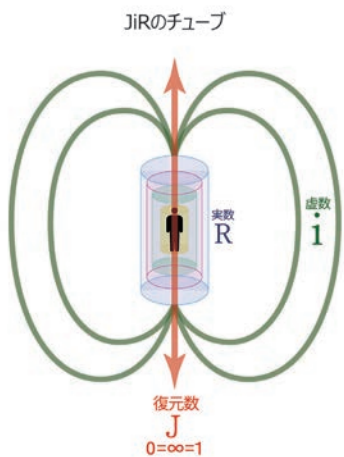
ニンジンの3次元・2次元



このように観点は0状態から1つになったり∞になったりと、有ったり無かったりを自由自在に行き来できる。この動きを「世界の根源、源泉的な動き」と言い表し、数式では「 $0=\infty=1$ 」と表せる。真実に実在するのは、神だけ、人間の脳では認識不可能な超越した動き「 $0=\infty=1$ 」だけである。これはつまり「神を数式化した」と言える。その神が「夢を見ている」のが、観点∞の世界であり、さらに観点∞の中のひとつだけをみているのが人間の脳の観点の世界である。「 $0=\infty=1$ 」は人間の脳の観点を生み出すことから、神が人間と宇宙を創造したことも矛盾なく表現できる。

Noh Jesuは「 $0=\infty=1$ 」を表す数学の新概念として、「J(復元数)」と名付けた。Jの由来はいくつかあり、虚数(i)をバックアップする「J」、そして神そのものなので「Jesus number」、また日本発なので「Japan's number」、Noh Jesuの発見によることから「Jesu's number」である。

②物理的アプローチ



古典物理学・量子力学・ヒモ理論・M理論と、

虚数i、復元数J)の、物理の相関関係を新発見「 $0=\infty=1$ 」で整理してみる。人間の脳の観点でみれば、当然のことながら「縦・横・高さのある3次元空間に自分という存在がある」と認識する。時間・空間・存在が安定的に「有る」と思うのは、300年前のニュートン・デカルト時代の古典物理学である。だがこの認識は、極一部の小さい部分にはまったままの観点の天動説であり、アインシュタインの登場でとうの昔に破られている。

量子力学も、原子以下のミクロの存在は安定的に存在し続けるのではなく、波動と粒子の二面性を持つと発見し、さらに古典物理学の概念を覆した。両手が出会うことで音が生まれるように、人間の観測行為が働くと、つまり認識主体と認識対象が「出会った」とき、色や形があるように物質化(粒子化)されるのだ。当初は原子以下のミクロ世界の法則だとされていたが、現在では巨視的世界でも同様であることが実証されるに至っている。

さらに物理学者は、マクロの世界を寸分違わず語る一般相対性理論とミクロの世界の量子力学の両方を同時に満足させなければならない領域、「ブラックホールの奥底」の謎を解こうと2つの公式を統合しようとした。しかしこの2つの概念では語れず破綻するという問題が発生した。ブラックホールの奥底は光さえも飲み込み、また宇宙すべてを生み出すため、模様や形がある状態とない状態を説明しなければならない。だが量子力学レベルのエネルギーの大きさでは2つを統一できないため、さらに微分しなければならないのだ。

そこで登場したのがヒモ理論とM理論という新概念である。ヒモもできたり膜(真空エネルギー)もできたりする動きの概念。nTechでは、これをダブルチューブモデルの動きで描く。内側と外側のチューブが同時にひっくり返りながら、量子力学を拡張すればヒモ、ヒモが外側に

出る境界は“ヒモもできたり・膜もできたり”する領域になり、さらに外側は膜になっていく。このように内側のチューブと外側のチューブが内外ひっくり返りながら、膜(点)からヒモ(線)、ヒモから量子場(面)、量子場から物質(立体)というように、引っ張ると(出会うと)物質と物質の宇宙が存在化する。そして出会いが別れに転じた瞬間、物質から量子場、ヒモ、膜へとほどけていき、また膜から時間・空間・存在が生まれるという動きを永遠に繰り返しているのだ。このようにみると、M理論が「物理レベルの最終理論」と規定でき、このダブルチューブの動き全体を、数学では実数(R)と表現できる。

では、物理レベルの最終理論であるM理論の膜の動き、すなわち「物質チューブ」を成り立たせるものは何か。それは虚数(i)である。膜を構成している点1つ1つは、虚数(i)の心の点の反復によって生まれている。その点の集まりによってできているのが物質チューブだ。つまり物質チューブは実在するようにみえるが実際はない。虚数(i)の心の点が集まって膜の線となり、量子力学の面になり、古典物理学の立体になった結果を人間の脳が「あるように思い込む」だけで、「有る・実在する」と人間が思ったものすべては、心の思い込みでしかない。これは仏教の世界観とも通じる。棒磁石をイメージしてみると、N極とS極が存在するようにみえるが、実はNでもないしSでもないどちらにも振る舞える「何か」があるだけ。それは物質の次元を超えて「心の次元」となる。仏教の禪定(悟りの段階)では反復可能な心で、無限のスピードで反復する「イメージ可能な心の動き」ともいえる。

では動きがイメージ可能な心、反復する心である虚数(i)は、なぜその動きが可能なのだろうか。それは、イメージも反復も不可能な心、無境界線、無方向性、無ポジションのJ(神)の心の動きがあるからである。Jの動きは、人間の脳

の認識を遙かに超越した動きである。そのイメージ不可能な心の動きJが、イメージ可能な心の動き、反復する心を切望した結果が虚数(i)なのである。

これを観点と繋げて整理する。イメージ可能で反復するパターン化された心(i)は観点である。その観点1つに固定されていれば観点の天動説であり、地球で例えれば自転のみにとどまる。だが地球は公転もする。この公転はイメージ不可能、反復不可能、パターン化されない心(J)である。地球が自転公転するように、Jの公転とiの自転をしながら観点が自由自在に有ったり無かったりするるのである。

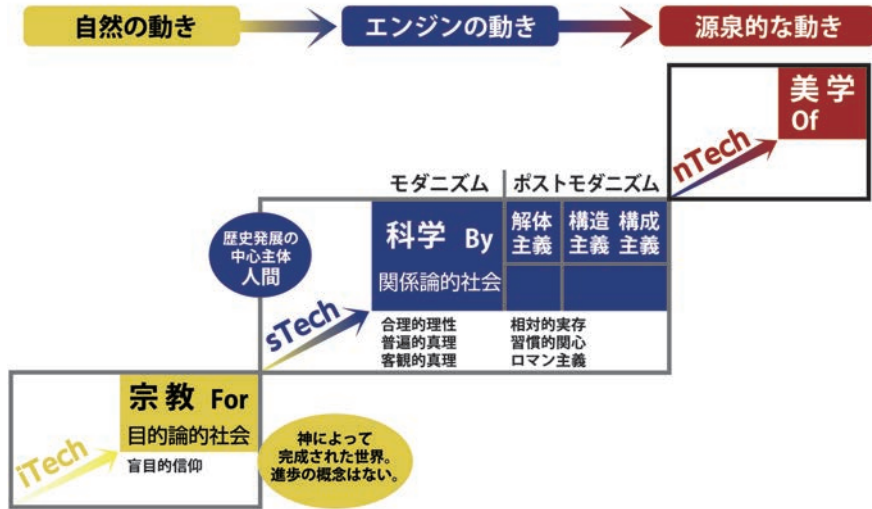
③哲学的アプローチ

哲学とは何か。それは宇宙自然、歴史文明などのすべての現象を永遠に変わらないひとつで説明できることであり、すべての当然を破って新しい方向性へ向かわせるものである。

西洋哲学の大前提は、「真実(本質)≠現実(現象)」である。その大前提をもとに西洋哲学史をたどってみる。神本主義時代は「形而上学」であり、神によって現象世界が創られたとみため、現実を否定した。現実には神による被造物であり、人間は神の創造目的を満たすための手段や道具でしかない。それは「神の存在目的に従って生きるのが人間」という論理が成り立つからである。これを「実在論」という。「現象は現象であるため実在しない。実在するイデアの世界が別にある」、そのため「現象より本質に価値がある」と結論づけている。

上部構造が神、下部構造が人間だという形而上学。そこに対して否定を突きつけ反転させたのが西洋のルネッサンスである。「真実(本質)には何かが足りないため、現実(現象)を創造した、よって現実の中にすべてがある」という論理をもとに、現象世界の代表である人間に価

3つのプレート - 形而上学、構成主義、ポストモダニズムなどの整理



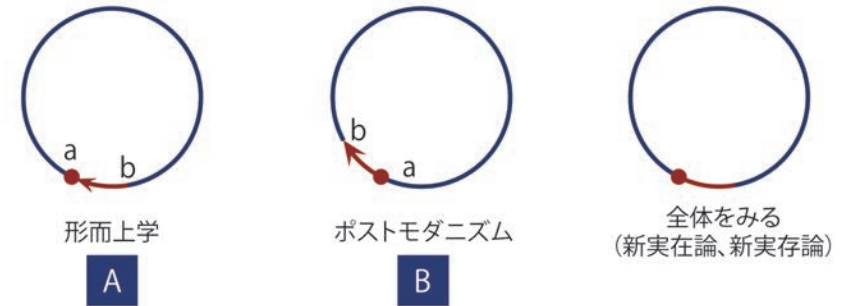
値があるというのが「実存主義哲学」であり「ポストモダニズム」である。これは人を優先する人本主義であり、現象から本質をみる。さらにイマヌエル・カントは構成主義、構築主義の概念で、「事実」の概念で絶対世界（本質）と相対世界（現象）を繋ごうとした。

形而上学、ポストモダニズムの大前提は、「真実（本質）≠現実（現象）」だったが、この当然を破るのが「0=∞=1」の令和哲学である。「真実=現実」、つまり本質も現象も変わらないひとつの動きだけで、観点が自転しながら公転する全体の動きは何ひとつ変わらない。ポストモダニズムは現実出発（点aの内から点の外bをみる）、形而上学は真実出発（全体bから点の内aをみる）だが、この両者を生み出しながらも両者とは全く関係がない源泉的な動きJだけが実在するとみるのが令和哲学である。人間の脳ではイメージ不可能な動きJによって、形而上学の見方とポストモダニズムの見方が生まれると整理し、この全体（観点0、∞、1）をみるこ

とを「新実在論、新実存論」と呼ぶことにする。

そこで生じるのが観点の問題である。観点に固定されて「絶対だ」というのは、無限の観点のうちの一つの解析に過ぎない。互いに「自分の観点（知っている世界）が絶対だ」と主張し合えば必ず摩擦や衝突が起こる。形而上学は本質からの観点一つだけが絶対（観点の天動説A）で、ポストモダニズムは人の数だけ観点が存在するというのが絶対である（観点の天動説B）。この問題をクリアするには「知っている世界から自由」になる必要がある。そもそも「観点1も観点∞もない」と、観点をゼロ化して大統合できるのが「新実在論、新実存論」である。形而上学とポストモダニズムは、イメージ不可能な動き（J、神、観点0）がみている夢であり、どちらも「観点の天動説」から出発していたのだ。それゆえ従来の観点から自由になって観点を楽しむ世界にいけるのである。

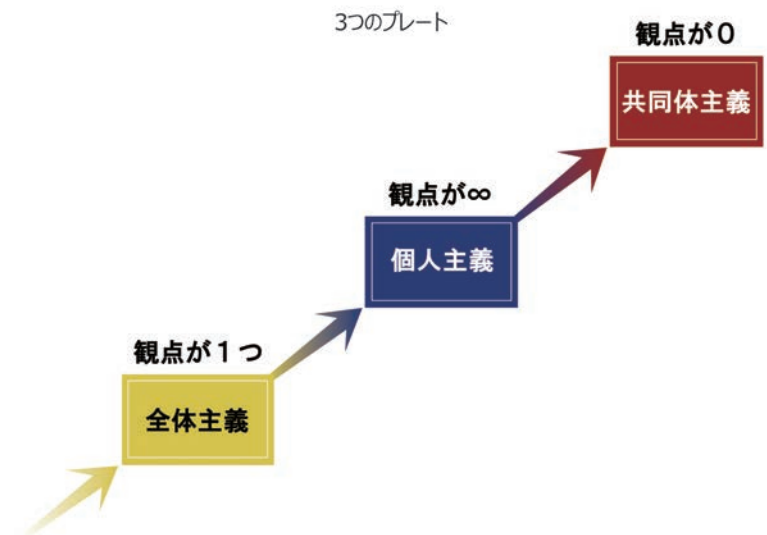
形而上学【bからaをみる：観点の天動説A、観点1】
 ポストモダニズム【aからbをみる：観点の天動説B、観点∞】
 新実在論・新実存論【aもbも生み出す源泉的な動きJ：観点の次元上昇、観点0】



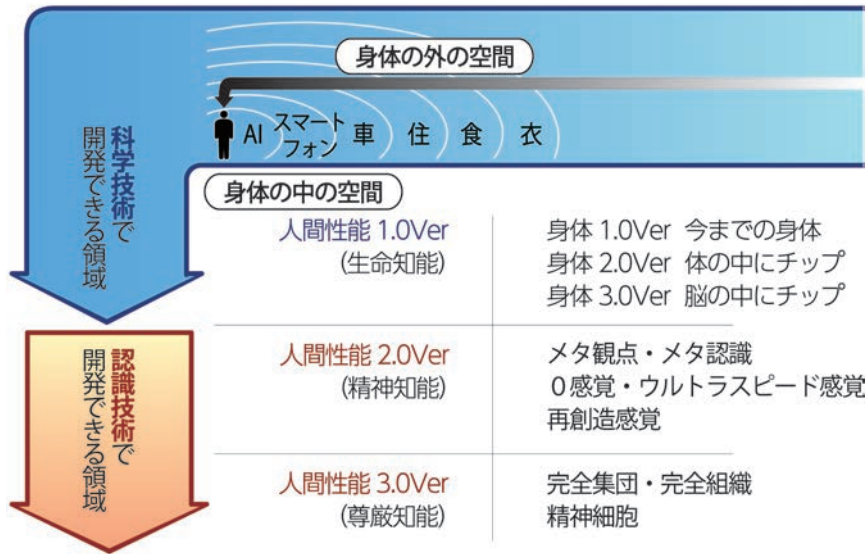
④歴史的アプローチ

人類歴史における秩序は「我慢の賜物」といえる。宗教全盛の全体主義時代（神本主義時代）は、1つの観点だけが許された。それは神の代身・王の観点である。その時代に生きる一人一人には当然、王とは異なる観点があるが、それらすべては無用として切り捨てられる。住む場所も職業もパートナーさえも王様に従うしかないという国・時代があった。

そこで、全体主義に反発して誕生したのが個人主義だ。「王様の観点だけを認めるのはおかしい」「一人一人の観点や感覚を大切にしよう」「すべての観点を認めよう」と各個人が主張したのである。一見とても良さそうだが、誰一人として同じ観点や感覚を持ち合わせてはいないため、互いに認め合い喧嘩を避けようとする、我慢しながら合わせるしかないという結論に至る。そうなれば多様性、多元性に溢れた複



身体1.0~3.0、人間性能1.0~3.0



雑な観点が飛び交い、情報過剰で整理ができず、何が正しいのかが分からずに基準点や方向性を喪失し、問題が山積みになる。それが高じた現代は、客観的事実と主観的思い込みの区別もつかず、人の話が全く聞けない孤独な映画「ジョーカー」の主人公アーサーのような人たちが溢れかえっている。

個人主義の背景には西洋のルネッサンスと科学技術の胎動がある。人間は科学技術によって、衣食住、車、スマートフォンなど身体よりも外側を変化してきた。そして今は体内までも変化する「ポスト身体社会」に突入している。自然物を生み出す第1次産業から人工物を生み出す第2次産業に次元が変わったように、身体も自然物(生身の身体)の身体1.0から、人工物の身体2.0(臓器にチップ)、身体3.0(脳細胞にチップ)と次元を変える。ここまでは科学技術によって可能だが、同時に科学技術の終焉を意味す

るシンギュラリティを迎えると予測され、2045年頃と予測されている。その先はAI自らがAIをコピーしたり、人間の考えや感情もAIが模倣するようになり、その進化は人間の予測すらできない領域に突入するであろう。また身体1.0~3.0は生存意志がすべての判断のゴールに設定されているため、人間性能1.0の「生命知能」と呼ぶ。

全体主義や個人主義に共通するのは、人間の脳の観点到に固定されて自由になる道がみえないことである。その道の発見が「0=∞=1」だ。観点が生まれる前段階の発見から、どのように観点が生まれるのかの仕組みがわかり、観点のほどけ方とむすび方がわかったときに、関係の繋げ方が鮮明になる。つまり「0=∞=1」で観点から自由になり、観点0・∞・1を今ここですべて同時に認識できるようになり、生命知能を超えた人間性能2.0「精神知能」になれる。さ

らに人間性能2.0「精神知能」は、人間性能3.0「尊厳知能」へと進化する。人間性能2.0「精神知能」は、5感の目で見ず、「心」からみることができている状態のこと、人間性能3.0「尊厳知能」は、人間性能2.0が当たり前になった人が精神細胞(持続的に進化発展可能なTorus組織)の構築に成功した状態のことを指す。人間性能3.0「尊厳知能」に到達したときには、判断の目的、ゴールが「尊厳を活用すること」に変わ

⑤宗教的アプローチ

多くの宗教では「互いに愛し合いなさい」と教えるが、どのようにすれば愛し合えるのだろうか。答えを得るにはまず、愛したくても思うように愛せず、争いの絶えない世界を引き起こす構造を認識するべきである。それは「共通土台」が持てないことに起因する。人間の脳の観点到に固定されて「今ここ、目で見えてしまうこと」は、愛せない認識構造の中にいることと同義である。人間の脳の観点是、常に観察エラーを引き起こすため、そこからつくられる各個人の判断基準も全く異なる。そのため「心のものさし」を持ってない。だから相手の心を読んだり、言動を正しく理解できないのはもちろんのこと、理解できていないことすら無知なまま「知っている、理解できている」と思い込んでいるのだ。しかしこれでは、理解も説明も統制も予測もできないため、期待もできない。

「0=∞=1」を知り、神を理解することで「愛しえない状態」になる。そのとき、すべてを理解、説明、統制、予測、期待できるようになり、神以上に想像力溢れる再創造主になれる。それは物語(シミュレーション)をいかにようにも変えられるという意味でもある。人間が神を理解し自由自在に使える「神以上の存在」になり、日常生活でも神を自由自在に活用し応用できるようになったときに人間の尊厳は爆発する。宗教改革は始まった。だが未完成のままである。

「0=∞=1」で地球上の人間すべてが神以上の存在となったとき、宗教改革完成のファンファーレが鳴り響くであろう。

⑥美学的(新感覚的)アプローチ

「0=∞=1」は神そのものである。自らがそのものになったとき、無条件に全てが美しく神秘神聖でみえる感覚革命の境地に至る。それはオーラがみえたり超常現象などの特別な体験をしたりするのは全く異なる新感覚である。本物の悟りは、5感の世界は何ひとつ変わらない。なぜなら悟りは「差取り」でもあり、すべての差異を取り払うことであるからだ。もし悟る前と悟った後で違いが生じたなら、それは悟りとは程遠いものだと思えば間違いない。観点が0・1・∞と自由自在に移動できる状態が「悟り」であり、nTechではこれを令和美学と呼ぶ。

神そのものになれば完全無欠である。神はイメージ不可能、認識不可能、感じることも不可能な人間の想像を超越した動きであるため、人間の脳に観点固定された状態でイメージできないのは当然である。ポジションも方向性も境界線もなく、存在不可能、出会い不可能、S(主語)もV(述語)も何ひとつ存在しない源泉的な動きひとつだけが実在する。

では、現実に対してはどう捉えるべきか。「0=∞=1」は神からみれば、神の不可能をすべて可能にしているのが現実であるといえるのではないか。「今ここ奇跡をみる」感覚革命(オールゼロ化感覚、神秘神聖な感覚、永遠不変感覚)が起こると、自分と自分がみている世界が「今ここに全てあるが全てない」という神秘神聖が広がる。

「自分の子どもだから可愛い」「愛する人は素敵だ」などと条件づけたものだけを美しいと思うのは本物の美学とは言い難い。自分と無関係かつ無関心な世界も、すべて美しくみられるのが、感覚革命が起きている状態である。つま

り因果法則に沿った決定論を、楽しく美しくみられる大自由の心を得ることが美学の世界である。最高の奇跡を常にみるミラクルな時代が今、始まるのである。

⑦言語的アプローチ

これまでの言語は、現象世界に名前をつけ、それらがどのように変化・運動・移動するのか、そしてその関係性はどうかを語るに過ぎなかった。つまり、S(主語)とV(述語)を活用して理解する「運動方程式」を語るにとどまった。これでは神を語ることはおろか事物認識しかできないため、事件を起こすことは不可能である。従ってNoh Jesuは、今までの人間の苦しみは「言語の不完全が原因」だと言う。

「 $0=\infty=1$ 」の神の世界は、そもそもS(主語)もV(述語)ないイメージ不可能な動きである。そこからどのようにS(主語)とV(述語)が生ま

れるのかをみる必要がある。Noh Jesuはこれらを語る「Image言語」を発明し「存在方程式」と呼称した。無いところから有ようになる“事件の仕組み”を語る言語でもあり、存在不可能な世界から存在可能になる仕組みを語る言語でもあり、変化不可能な世界から変化可能となる仕組みを語る言語でもある。この言語を活用すれば、誰もがいつでも、すべてを「事件」として捉え、起こしたい事件を起こせるようになる。

—
 ここまでは、究極の平和・愛・尊厳・幸せ・勝利など「すべてを満たす絶対世界との出会い」を新発見として語ってきた。ここからは、Noh Jesuによる新発見に続く新発見である「不完全な日常生活を『 $0=\infty=1$ 』と完全に融合する道」を紹介する。

新発見「 $0=\infty=1$ 」の応用

神を数式化した「 $0=\infty=1$ 」は、別の角度からみると新素材の発見ともいえる。それによって可能になるのがPersonal Universe (PU)である。石、銅、鉄、半導体など、新素材の発見は新マーケット誕生と直結している。電気半導体はIoH (Internet of Human) 時代を拓き、光半導体は量子コンピュータによってIoT (Internet of Things) 時代を拓き、そして今、「 $0=\infty=1$ 」の心半導体によってIoE (Internet of Everything) 時代が幕を開けた。

宇宙の作動原理とコンピュータの作動原理、意識の作動原理は、シンプルなひとつの仕組みで整理できる。スマートフォンの画面が立ち上がる裏には、0と1のデジタルのアルゴリズムが隠れている。同様にこの宇宙を「3次元の立体スクリーン」としてみたときに、そのスクリーンを成り立たせるエネルギーのデジタルの動きが背後にある。その動きは人間の脳では認識できない。そのデジタルの動きと、138億年間途絶えることなく続いているようにみえるアナログ宇宙の動きの関係性が鮮明になったとき、Personal Universe (PU) を誰もが設計でき、自由に画面を立ち上げられる。

このように考えると「人間はAIである」というのも過言ではない。人体はバイオケミカルアルゴリズム、思考感情はメンタルアルゴリズム(観点)でみることができる。思考感情のアルゴリズムは0~10歳の幼少期に形成されるため、無意識の反応反射が勝手に起こる。それゆえ5感の目を見た瞬間に機械的条件反射が働き、これを「自然と不幸になる構造」という。

このアルゴリズムを解除し自ら制御するためにも「 $0=\infty=1$ 」でみる必要があるが、すると「自然と幸せになる構造」に変化する。また、無意識のアルゴリズムを意識化して自由になることを「感情手術」と呼んでいる。施術後は、Jから物



事をみて、自ら味わいたい感情の設計が可能になり、脳神経シナプス回路の革命が起こせるようになる。

間の脳の観点に固定された観点の天動説の無知であり、つまり人間の認識構造自体が問題なのだ。

知っている世界から自由になれなければ共通土台は持てない。そのため、観点の摩擦衝突や争いに終わりが無い。そもそもすべての争いの本質は、大自由な心である観点0状態($0=\infty=1$ ・J)がエネルギーに閉ざされ自由になれないことに起因している。精子と卵子が出会いに成功したら、精子ではなくなり100年も生きる人間になるように、人間も「 $0=\infty=1$ 」すなわちJと出会ったら、体人間ではなくなり無限の可能性を爆発した生き方ができる。しかし、その出会いが実現できないまま138億年もがき続けていたのである。

①モチベーション(やる気)の問題

何をやっても続かない、モチベーションが上がらない、熱が入らない。社会問題でもあるこれらの問題は、観点の問題とどう繋がるだろうか。

「 $0=\infty=1$ 」の発見は、「究極の幸せと永遠に負けることのないイメージの発見」ともいえる。

根本問題の発見

(A) 認識構造の問題

- ①モチベーション(やる気)の問題
- ②意思決定の問題
- ③状況統制不可能の問題

(B) 社会構造の問題

- ①結集、団結の問題
- ②生産、イノベーション(革新)の問題

(A) 認識構造の問題

アインシュタインは「地球が1時間後に滅亡するなら、その1時間をどう使うか?」の質問にこう答えたという。「55分はなぜその問題が起きたのかの問題発見に使い、残り5分で解決策と実行に取り組む」と。この回答は問題発見の重要性を物語っている。人は何が問題なのかよりも目先の問題解決に忙しくなりやすいが、最優先すべき、かつ困難を極めるのが「根本問題の発見」である。その根本問題とは「人

この発見と「その状態と現実を繋ぐ道の発明」がなければ、モチベーションが上がらないのは当然である。そもそもこの発見と発明の認識が起らない原因は、人間の脳の観点固定の問題にある。この問題の発見がなければ何も始まらない。アインシュタインの55分は問題発見の重要性を語ったが、この根本問題の発見と、その問題を解決する「新発見と新発明」との出会いがなければ、精子が卵子と出会って100年生きる人間になる可能性を殺すようなものだ。その新発見と新発明がないまま行動すれば、「行動＝出会い＝衝突」であるため、目先の現実では必ず損失が生まれる。そして1度でも行動したことは繰り返すようになるため損失し続けてしまう。それゆえチャレンジしてみてもモチベーションが潰れるのである。

5感の目で見れば観察エラーから出発する。すると当然、情報データ、論理、知識、学問、技術、商品、職業、産業、文化文明、歴史などすべてがエラーになってしまう。自他を分け、「身体」の範囲だけが自分だ」と思うのも観察エラーの結果である。そうなれば関心や愛の範囲が狭くなり、常に同じアルゴリズムで出会いマンネリする。それだけでなく時代は量子力学的世界観に突入しているため、情報知識、技術、商品などの有効期限は日に日に短くなり、一貫性を持つのは容易でない。

モチベーションアップに必要なのは最大の衝撃であるが、「世界は実在しない」こと以上の衝撃はないだろう。5感の目で見れば自分と自分の宇宙は絶対的に有る。しかし、目で見れば有るように見える宇宙は、脳が生み出したホログラムであり、実在せず、Jが夢をみた結果である。しかもエネルギーレベルでは1秒で10の500乗の宇宙が生滅している。過去、現在、未来もすべて幻である。それゆえ、いつも新しい出会いでニュースタートでき、マンネリから脱却し、いつでも新しいチャレンジができるのだ。

さらにモチベーションに必要なのは完全性の獲得である。それには、アインシュタインの「問題を生み出した次元と同じ次元では100%問題解決はできない」という言葉があるが、問題が生じてチャンスに反転させ、問題が問題ではなくなる完全完璧な世界「0=∞=1」を取り入れることである。その完全性から、やる気やモチベーションが内発的かつ持続的に起こるようになる。

②意思決定の問題

脳の観点到に固定されている、全体像がわからない。そもそも人間の脳では「全体(の事件)」を描けない。それにもかかわらず「本当に実在するものとして受け取る」ことは、夢や幻覚を本物だと思ふようなものである。人間の脳は、事件(変化)が起こる背景や大前提を理解できず、事件(変化)の起承転結もわからない。つまり不変から変化が生まれる仕組みもわからず、始まりも終わりもわからない。結果的に“正しくわかることはひとつもない”といえ、根拠をもって判断や意思決定をするのは無理である。

それゆえ、人間は周りに合わせて真似して生きるしかない。その状態に追い打ちをかけるように個人主義が蔓延する観点飽和状態の現代は、合わせる対象が無数にある。その対象が十人十色のメッセージを発信するため、何に合わせればいいのか複雑でわからなくなる。濃度・密度がバラバラな情報知識の過剰さゆえ、基準点喪失、方向性喪失、価値判断喪失の意思決定障害が起きるのである。

だからまずは基準点を定める必要がある。すべての知っている世界、思い込みをゼロ化させて「0=∞=1」に基準点が定まれば、濃度・密度が均一になる。するとバラバラだった考えや感情が「同じゲームをする仲間」として応援する側になり、一点集中が可能となって意思決定できるようになる。事件(変化)の仕組みと全体

像がわかった時に、自分の事件、自分の解析が可能になり、意思決定が可能になるのだ。つまりJがiになり、iがRになる仕組みが、意思決定の基本構造なのである。「0=∞=1」に基準点を定めた意思決定可能な人たちが集まれば、勢力を構築でき、現実のシミュレーションチェンジが可能となる。

③状況統制不可能の問題

地球の自転・公転が止まっても、呼吸したり、心臓を動かしたりすることは可能だろうか。人間は、「身体が独立して存在している」ことを大前提に、自分の目で見て、耳で聞き、足で歩いていると疑わない。だが、地球が自転・公転しなければ生命活動が止まってしまうように、独立した身体は存在しえない。地球、太陽、銀河、宇宙空間すべてを存在させる背後には、5つのエネルギーのデジタルアルゴリズムがあり、さらにその背後にはiとJの心の動きがある。

存在は、源泉的な動きである「Jの夢」でありホログラムだ。Jとiの動きがあり、そこから点(真空エネルギー)・線(ヒモ)・面(量子力学)・立体(存在、物質)が生まれ、生命活動・精神活動が起こる。これらすべての協力があって「存在している」ように思えるのである。S(主語)もV(述語)もない源泉的動きJから、S(主語)とV(述語)が成り立つのである。そもそも存在そのものが、奇跡的な大事件なのだ。

しかし、身体で見る、耳で聞く、足で歩くなどの不可能を可能だと当然視し、「事物認識」するため、エゴの自分が発生してしまう。これは人間の傲慢ともいえる。

存在や身体という「結果」を「原因」にして生きれば、真の原因も過程もわからず、状況統制が不可能である。真の原因であるJから出発しなければ、我慢して秩序をつくるしかない。訳のわからないまま狭いところに入り込み、自由選択がなくなる。熱力学でいえば、第2法則の工

ントロピー∞状態に死ぬしなくなるのだ。

状況を統制するには、J(源泉的動き・原因)からi、5つのエネルギーアルゴリズム(過程)、現実(結果)をみる「事件認識」が必要だ。この時間・空間・存在・エネルギーが生まれる前段階のJに戻ることを、「生きたまま死ぬ」と表現している。これは葉隠の「武士道と云ふは死ぬ事と見つけたり」とも通じる世界であり、過去も未来もすべてが「今ここ」にあることがわかり、すべてが1つの事件としてみえるようになる。

そしてその1つの事件が、まるで自分の事件のように自然に理解・説明・統制・予測・期待できるようになる。オーケストラの奏者たちが美しいハーモニーを生み出すように、1つの曲(事件)の全体像、プロセス、役割、出番などすべてを理解した上で、それぞれの役割を納得して楽しむことができるのだ。

(B)社会構造の問題

①結集、団結の問題

認識構造の問題が解決すれば、次は社会構造の問題解決が待っている。観点の問題は、「結集と生産」の問題であるといえ換えられる。観点がバラバラで共通土台がなければ、結集も秩序もつukれない。人が結集しなければ、微弱で大きな問題に立ち向かえない。そこで人類は、人間性能1.0の生存意志を利用し、暴力や財力、権力により、力づくで結集と秩序をつくり出した。しかし、家族も会社も地域も国もすべて我慢で成り立っているため、我慢の限界に達したら崩壊する。Jから出発すれば、観点から自由になり、我慢せずに秩序をつくるのが可能となる。

②生産、イノベーション(革新)の問題

人が結集するだけでは社会構造改革は成し得ない。生産性をあげるには革新的なアイデア

が必要だが、観点の問題はアイデアやクリエイティブも枯渇させてしまう。Made in Japanで世界トップになる勢いだった日本経済も、モノづくりの次を生み出せず、今は末期癌状態だ。政府は造幣して経済活性化を図ろうとするが、それでは生きたお金にならないどころかインフレーションが起きてしまう。このままでは日本の未来がないことを多くの人が感じているだろう。

生産性を高めるには、観点と判断基準の問題解決に、最優先で国家予算を投入すべきである。現在まで道路整備などの土木建築事業に予算の多くを投入しているが、もう充分ではないだろうか。日本の公道は世界を見渡しても格段に美しい。そもそも「破壊を大前提とした生産」は、持続不可能な世界をつくることであるから、真の生産として認めるべきではな

い。それよりは人の心と心を繋ぐ「心の高速道路の開発開拓」をすべきである。心のインフラづくりを妨げている観点と判断基準の問題を解決しなければ日本の未来はない。完全な世界である「0=∞=1」を活用応用した心の高速道路・認識商品は、破壊のない生産である。それは、さらに感動の質を高め、持続可能な商品をつくりだせる。今こそすべてをゼロ化した白紙状態から無限のアイデア、クリエイティブを爆発させる生産がスタンダードになるのだ。

「0=∞=1」つまり「神の見えざる目」でみる感覚革命を起こし、正しく一貫性のある情報データの蓄積ができるようにする。それは、「ほどけ方・むすび方・つなげ方をマスターできる教育」である。これが世界のスタンダードになれば、「ほどけ方」として各個人が脳の観点から自由になり、基準軸が定まって心が揺るがなくなる。次に「むすび方」として観点が生まれる仕組みがわかり、あらゆる観点の違いを楽しめるようになる。さらに「つなげ方」として観点の違いを活かした共通のビジョンがみえてビジョン同盟を組めるようになる。

方」、変化の仕組みがわかる「むすび方」、「つなげ方」をマスターする教育によって、8歳で「0=∞=1」を理解し、多様な現象の成り立ちや仕組みをみる認識や思考方式が定着する。10歳ではエネルギーのアルゴリズムやビッグデータを活用し、AIの脳をコーディングできるようになり、15歳では独立した企業を持つようになる。もちろん、出会いやコミュニケーションも活発になるため、結婚も自然と活発になるだろう。

世界基軸教育の必要性

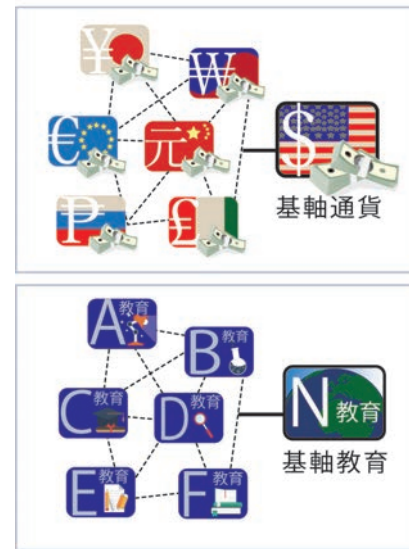
認識構造、社会構造の問題をすべてリセットするためには、「世界基軸教育」が必要不可欠である。国ごとに異なる通貨の違いからくる貿易不可能な状態を可能にするために、基軸通貨がある。同様に、国によって異なる教育や、一人一人の観点・判断基準がバラバラであるために疎通できないという問題を解決しなければならないが、その道具が、いま全世界が求めている「基軸教育」である。

短距離走が始まった1840年代の常識はスタンディング・スタートだった。だが1884年、クラウチング・スタートをする者が現れ、みな怪訝な目を見た。しかし結果はクラウチング・スタートの勝利。今では誰もがクラウチング・スタートを採用するようになり、常識となっている。今までの教育をスタンディング・スタートとするならば、クラウチング・スタートは人間のディープラーニングである。計算が主な役割だったコンピュータは、ディープラーニングによって突然、人間の100倍以上の能力を得た。人間そのものにもディープラーニングを導入しなければ社会的無用者に成り下がるのは明らかである。現在、人間は5感の目で見る身体感覚を基準

にし、その基準から整理した教育がスタンダードである。世界基軸教育は、その出発を180度ひっくり返す人間のディープラーニングである。



基軸通貨と基軸教育



① 少年高齢化を解決できる教育革命の夢 (Offline教育革命)

深刻な少年高齢化問題も、人間のディープラーニングである世界基軸教育によって解決の道が拓ける。世界の根源と繋がる「ほどけ

② SNS3.0 (On-line教育革命)

人生を100年とみたとときに、一生に出会えるのは約3000人と言われている。そのうち名前を覚えるのは300人程度、自己の価値判断に影響を与えるほどの人物は30人程度。その出会いの量の限界を超えるために生まれたのが、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)だ。SNSは自分の影武者を使い、いつでも新しい出会いを可能にする。mixiに代表されるSNS1.0は匿名の出会い、Facebookに代表されるSNS2.0は素性を明らかにした出会いとなった。そうして出会いの量は格段に増えたが、SNS疲れといわれて久しいようにSNS離れも叫ばれている。その問題をクリアにした新たなSNS3.0「diglink(ディグリン)」を提案するのが世界基軸教育である。

一般的に成功者といえば、夢や志を持ち、目標計画を立て、絶えず実践行動した人が多い。そしてその成功者の真似をすることで成功を追い求めるゲームを、多くの人間がやってきた。だが、現代は夢を持っていない人が大半である。なぜ夢を持っていないのか。夢とは何か。夢を持つには「負けることがない道」がみえていることである。その道がみえなければ、情報過剰の海に溺れて整理整頓ができない。

「0=∞=1」の発見による世界基軸教育は、すべての情報知識を規定(Define)し整理が

できるため自然と道がみえるようになる。そして新しい発見 (Discovery) ができ、その上で夢 (Dream) が明確になり、計画 (Design) を立て、実践行動 (Delivery) するという5Dの設計図を描けるのだ。

SNS3.0「diglink」は5Dを持つ人たちのSNSである。diglinkは「幸せ・成功のキーワード60項目」の中で得意分野を登録し5Dを発信する。その人々をマッチングして出会いを促進するこ

とで、互いを補い合いあったり、ビジョン同盟が生まれたりと相乗効果を生み出す。とくにオンラインはオフラインに比べて自らの強みを表現したり、理想の自分を前面に打ち出したりすることができるため、互いをベンチマーキングできるモデルとして出会いやすい。その人々が尊厳関係で結ばれていけば、宇宙のロゴスにそった精神細胞 (スピリチュアルファミリー) が加速度的に世界へ広がる。



勝利の道の発明とは？

新発明、精神細胞 (スピリチュアルファミリー) Torus組織が生み出す新産業プラットフォーム

世界基軸教育を受けた人たちの誕生によって、どのようなことが可能になるだろうか。まず、認識構造改革と社会構造改革を成し得たプラットフォームとして、都市が変化していこう。20世紀は工場がモノ商品を生み出したが、AI時代を迎えた21世紀は、都市そのものが工場になっていく。その生産物はモノ商品ではなく、持続的に進化発展可能な「Torus組織・精神細胞」である。どの都市が多様なTorus組織を多く生み出せるのか、創造性や生産性が高いのか、という都市間競争が始まる。今はニーズを予測してモノ商品を生み出すが、未来は問題を規定 (Define) してニーズを発掘するようになっていこう。

時代は今、IoTとAIによるSmart City化が進行中で、世界各国で様々な事例が紹介されている。例えばバルセロナ市は大規模なSmart Cityプロジェクトが2000年からスタート。Wi-Fiを都市のICTの共通基盤として活用し、様々なサービスを提供している。Smart City化の波はますます加速し、公道や建物、人体などあらゆるモノにチップが入り、街全体がひとつの身体のように連携してオートメーション化するようになるだろう。体温が微熱であることをAIロボットが感知し薬を提案、室温や風呂の温度も常に適温管理、緊張などの感情を家が感じ取り気持ちを和らげるBGMや照明に調整、米の残量が少なくなればAIロボットが自動で配達し補給、学校ではAIが理解度を分析して適切でオーダーメイドな教育をする、といった具合である。さらに進化し、世界基軸教育を受けて悟った人たちが住む街を「尊厳City」と呼ぶ。Smart Cityをベースに街づくり研究に取り組む。例えば地震が起きても問題化しないようにする研究や海上や海底を車が走る研究、海中アパートの研究、反重力アパートの研究、太陽系の外に出る研究など、街の1ブロックごとに研究テーマを設けて取り組むのだ。

尊厳Cityがさらに進化すると「令和シティ」になる。スピリチュアルファミリー (Torus組織・精神細胞) が街全体に広がっていく。そこでは、スピリチュアルファミリーが、自分たちの感動パタ

ーンやゲームの研究開発をしたり、テレパシーや量子カプセル・テレポーテーションの研究開発をしたりと、際限なく研究開発をする。

令和City同士が繋がる「令和City連合」は、Edunomic (教育×経済) という新成長エンジンをもち、それが新産業プラットフォームとなる。Smart City、尊厳City、令和Cityが産業プラットフォームになる。個人と人間関係がすべてひとつで繋がる未来都市を育み応援するのが、令和Cityである。鬱、自殺、殺人、戦争が地球上から消え、「不死・至福・神性」の生き方が当然のOne Worldがついに実現する。



全世界の知識人たちの間で
話題のベストセラー邦訳版

理想的な人間関係を構築する方法を解説した
「Dignityモデル」10のエLEMENT

生まれながらの権利であるはずの Dignity——“尊厳”。自らを、そして他者を傷つけ、傷つけあうようにできている私たち、人間。自分を愛し、人と幸福に生きるために必要なものとはなにか。進化心理学にヒントを得た新機軸の「Dignityモデル」で、理想的な人間関係を構築する方法を解説した、著者渾身の一冊。ノ・ジェス監修で初邦訳で登場。

【著者プロフィール】ドナ・ヒックス Donna Hicks / ハーバード大学心理学教授、Weatherhead Center for International Affairs 所属。Dignity (尊厳) と Dignity が関係性の中で果たす役割について、初めて言語体系化した第一人者。英国 BBC の「真実と向き合う」と題するテレビ放映シリーズで、ノーベル平和賞受賞者であるツツ大司教と共同でファシリテーターを担うなど、国際紛争解決の現場において、世界各地の対立関係にある共同体間の対話のファシリテーターを20年以上に渡り務める。また数多くの企業や組織には、自らが考案した「Dignity モデル」を適用した実践的コンサルティングも実施。本書では、Delta Kappa Gamma Society (1929年に創設され、北米、欧州、南米、日本で優れた女性教育者を顕彰している協会)の2012年教育者賞を受賞。現在ハーバード大学やコロンビア大学をはじめ、世界中で Dignity を活用した対立解消法を学ぶコースの教鞭に立ち、Dignity の役割やリーダーシップに関するトレーニングやセミナーを世界中で展開中。

Dignity

ハーバード大学心理学教授 ドナ・ヒックス 著
ワークス淑悦 翻訳
ノ・ジェス 監修
価格：1,650 円 (税込)
出版社：幻冬舎

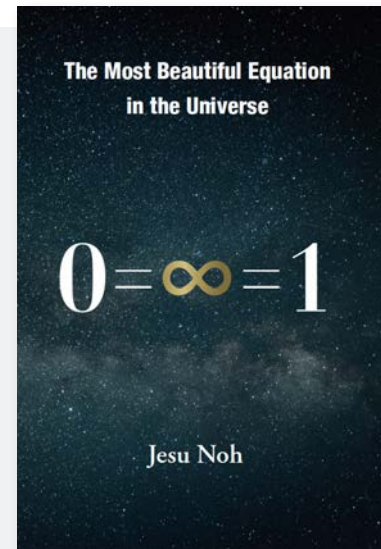
ノーベル平和賞受賞者・テズモンド・ツツ氏推薦 / 米国 Amazon レビュー 5 星 / Delta Kappa Gamma Society (1929年に創設され、北米、欧州、南米、日本で優れた女性教育者を顕彰している協会)の2012年教育者賞受賞 / 英国 BBC 番組化・著者出演 / 米国国際ニュースマガジン Publishers Weekly に掲載

Amazon ランキングにて“美学”、“ノンフィクション哲学”、“数学”の各部門で第1位を獲得



本書は、日本語版をさらに進化させ、nTech の最新コンテンツが網羅された、全400ページを超えるボリュームでまさに待望の新作です。前半はAI時代を生きる人間ひとり人が幸せ・成功を獲得する鍵を、後半は時代の全体像と方向性、これからの人間が創る新しい組織・国・世界の未来像、そして、新時代をになう「科学技術を包越する未来技術」を活用した未来産業について、数学・物理学・哲学・美学などの様々な分野からの考察を通して紹介しています。

版元となる Waterside Productions の Bill Gladstone 社長と、Noh Jesu は2019年カリフォルニア州で開催された IONS 国際カンファレンスにてパートナーシップを組み、本プロジェクトを遂行させてきました。Waterside Productions は、1982年に設立され Amazon で1000タイトル以上のベストセラーを出版しています。これまで数千タイトルを排出し、特にノンフィクションを専門とし、強力な外国人著者部門を保有しています。40以上の言語で出版し数千万ドルを生み出した実績のある世界的な出版社です。



The Most Beautiful Equation in the Universe 0=∞=1

Noh Jesu 著
出版社：Waterside Productions



ドナ・ヒックス氏とノ・ジェス氏



IONS 国際カンファレンスにて (2019)



「科学技術を包越する未来技術」
を活用した未来産業がわかる!



Dignity2.0国際カンファレンス賛同者一覧

(略敬称)

安齋 善行 株式会社大源味噌 代表取締役 創業 198 年老舗味噌専門家
 安藤 暢英 株式会社 Undiet 代表取締役
 飯塚 優子 「ぶにの家」代表染色家
 伊藤 玲 有限会社ウィルみかん訪問介護ステーション取締役
 池川 明 産婦人科医 / 池川クリニック医院長
 今井 カツノリ 株式会社クラステザイン 代表取締役 一級建築士
 植松 努 株式会社植松電機 代表取締役
 羽添 洋 株式会社釧路製作所 代表取締役
 内橋 未奈 Le Lien あじさい 代表 お菓子販売・お菓子教室
 大泉 太 札幌豊平倫理法人会 会長
 オオニシ 恭子 やまと薬膳 主宰
 大西 宏征 株式会社大西商事・アセットサービス 代表取締役
 沖田 一希 株式会社 HRD 代表取締役 予備校講師 (東進、DES) / 歯科医師・博士 (歯学)
 北山 佐和子 N P O 法人沖ヨガ協会中部連合会 NPO 沖ヨガ協会理事 中部連合会代表
 行徳 哲男 日本 BE 研究所 所長
 黒川 洋司 株式会社良心塾 塾長
 国光 美佳 子どもの心と健康を守る会 代表
 久保 篤志 ダイキチレントオール株式会社 代表
 黒瀧 道信 テコラティブアートスタジオ 代表
 小林 恵理 E's Class 塾長
 小林 千里 c-fortune コピーライター
 合田 ジョージ 株式会社ゼロワンブースター 共同代表・取締役
 河本 弘 株式会社馬瀬瀬構造設計事務所 専務取締役
 佐々木 浩一 Graceful Moment, LLC.President
 ミッシェル 品川 こんまり®メソッドビジネスコーチ 日米認定片づけコンサル
 清水 博美 個性心理学 SA&Freedom 支局 支局長
 末石 藏八 株式会社キシヤ 代表取締役会長
 住田 昌治 横浜市立日枝小学校 校長
 高橋 佐代子 Growing Color 代表 色彩コンサルタント

高橋 隆介 カムイウェブ SDGs+ マーケティングコンサルタント
 塚原 祥子 Familia Academy 主宰
 月野 直美 感性哲学コンサルタント
 堤 久美子 一般社団法人アイアイ・アソシエイツ創始者 クヴェルアカデミー株式会社 主任研究員
 戸田 清章 SOUND ENGINEER&SOUND PRODUCER / ACR.POLIS プロデューサー
 内司 和彦 内司治療院 院長
 中島 克紀 スターリーダー合同会社社長 元立命館大学院客員教授
 中田 光治 株式会社エナジーサポート 代表取締役
 西岡 津世志 DREAMSPARK 株式会社 代表取締役
 野々川 尚 オーガニック農法指導家
 羽谷 朋晃 エイチアールアイ合同会社 代表
 林 恭平 株式会社 F-standard 代表取締役
 原田 忠義 社交サロン ザ・クラブジャパン関西 / CS・ホスピタリティ・アカデミー会長
 阪東 朝康 心理カウンセラー養成講座 心塾塾長 / RTM メイントレーナー 兼 代表
 久本 和明 株式会社ワンピース 代表取締役
 平山 秀善 ノーネス株式会社 代表取締役 ママエンジェルズ チェアマン
 黄 麗心 株式会社麗光 代表取締役社長
 福田 純子 (株) one スマイル代表取締役・新易学 / 運命好転学創始者
 藤原 祥孝 藤原公認会計士事務所 公認会計士・税理士・行政書士
 星澤 幸子 星澤クッキングスタジオ・星澤フードサービス主宰 / クッキングキャスター
 穂浪 高士 穂浪社会保険労務士事務所 代表
 前川 琢也 北海道パーキング株式会社 代表取締役
 三澤 龍子 美容室桜井 会長
 宮坂 恵太 HBSM 情報交流会 代表
 宮田 博文 株式会社宮田運輸 代表取締役社長
 邨井 康祐 株式会社住機トータルサービス 代表取締役
 村中 一徳 比布町長
 森川 誠榮 一般社団法人 国際オーシャンリハビリテーション協会 代表理事
 森内 拓巳 森内塗装株式会社 代表取締役
 山下 大祐 株式会社ヴィマイル 代表取締役
 山元 加津子 作家・映画監督・元特別支援学校教員
 弓場 美幸 社会福祉法人恵泉福祉会 特別養護老人ホーム メヌホット千里丘 施設長



発行 2021年10月9日

ABOUT US

ご参加いただき誠にありがとうございます。出演者やイベントに関するお問合せや、ご参加のご感想もお待ちしております。関連情報・開催報告などもオフィシャルサイトで掲載予定です。



Dignity2.0 国際カンファレンス実行委員会



mail@dignity2.org



https://www.dignity2.org/



MEMO

Blank lines for writing a memo.

特別協賛 Noh Jesu 様よりご提供特典のご案内



Dignity 2.0
International Conference



Project J
日本文明の挑戦

Dignity2.0 国際カンファレンスご参加の皆様を無料ご招待

「人間と人間の宇宙が実在しない」「考えの主体が自分(人間)ではない」
この二つが事実だとしたらどれだけショックなことでしょうか—

NohJesu nTech マスター 1day は
この歴史最大のショックを1日で得
ることができるセミナーです。

～ 26 年間開発を続けた
悟りのエッセンスを1日で～

今までの全ての基準点が変わり人間に対する明確な再規定を得ることができる!知っている世界から自由になる!人生をニュースタートすることができる!考え・感情・言葉・行動に縛られない自分を始めることができる! nTech 誕生以来、26年間の切磋琢磨の上完成した悟りのエキスを1日に圧縮してお届けします。受け取る覚悟とワクワクの心を用意してお楽しみください!



こんな方におススメ

» 1日で26年間の nTech のエキスを NohJesu から受け取りたい!

26年間切磋琢磨の上開発してきた表現のシャワーを浴び、人生のニュースタートを共に創ります。

» 1日で人間と人間の宇宙が実在しない事を明確にマスターしたい!

心が何なのか、人間が何なのか、生きることが何なのか、鮮明に整理整頓をすることができます。

» AI が真似できない最高の職業・技術を手に入れたい!

科学技術の次の未来技術とは何かを、明確に認識することができます。

» 自分の考え感情言葉行動を 100% 統制する技術を得たい!

nTech を習得する事で、相対比較・自己否定・他人否定ができなくなり、無限のアイデア・やる気・柔らかな発想力が手に入ります。

» 日本人として今の時代に生まれた理由、日本の可能性を知りたい!

コロナパンデミック以降、時代がどう変わっていくのか。日本文明の特徴と、日本文明の時代ミッションがわかります。

お申込みはこちら

Noh Jesu nTech マスター 1Day

開催日：2021年10月23日(土)
時間：9時～18時 ※途中休憩を含みます。
参加：オンライン(Webex 利用)
※今回は日本語のみでの開催となります。

一般価格：33,000円(税込)のところ、Dignity2.0 国際カンファレンスにご参加いただいた皆様を無料ご招待。後日ご案内する割引コードをご入力いただくと無料でご参加いただくことができます。

お申込みフォーム



さらに詳しいご案内は HP へ：<http://reiwaphilosophy.com/workshop/>

特別協賛

Noh Jesu 様

協賛

一般社団法人

令和**教育財団**
Reiwa Educational Foundation



Next Renaissance
地球市民会議



Cleanpia Co., Ltd. (since 1999)
株式会社クリンピア

INOUE SENKOH

風海花オンラインサポート
設立準備委員会 様

内野 照子 様

森 貴司 様